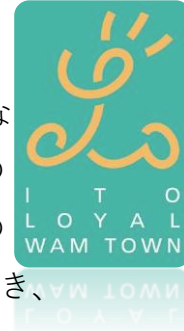


踏み出し続けた先に築いた介護DXのいま – 1日115分の業務効率化を実現！ –



□ 1.取り組みの背景

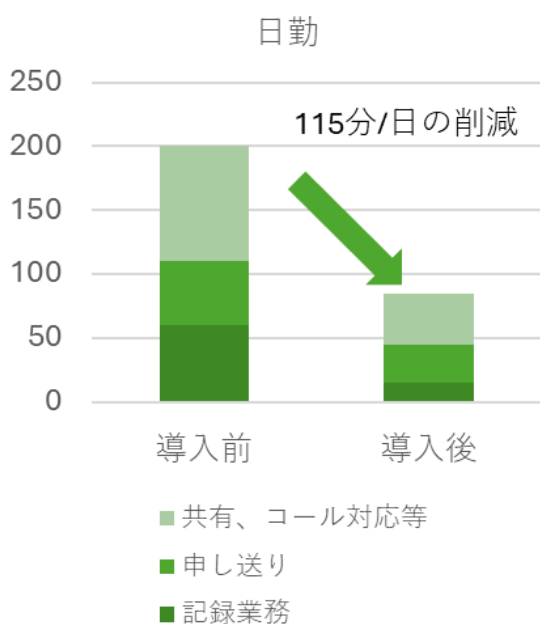
介護記録やカンファレンスの議事録等の業務が増えている中、ご利用者への個別ケアに十分な時間を割けていない現場課題があった。それに対し、ICT導入で記録・申し送り・巡視時間等の業務効率化を行い、ご利用者と関わる時間の創出を図りたかった。また、現場にとってICT化の変化は戸惑いも大きいと考え、昨年に株式会社アズパートナーズの介護DXサポート採用いただき、スムーズな導入・定着を目指した。現在は「ツールの導入」から「**チームで成果を生み出す**」フェーズへと移り、生産性向上推進体制加算Ⅰの取得を目指している介護老人保健施設というの杜の事例(6フロア中の1フロア)を下記で紹介する。

□ 2.推進体制と活動内容

- ・生産性向上推進チームの設置(ICT委員+現場リーダー)
 - ・定期的な会議で課題と進捗確認の実施
 - ・ケアカルテ、ハナスト、眠りSCAN等を自施設に即した活用促進
- 導入から“定着”へ、全スタッフの実践力を高めるサイクルの構築へ**



□ 3.現場の変化



1人1日、115分の業務効率(日勤帯)の創出が可能に！

業務効率化の推進により、ご利用者とのコミュニケーションや個別ケア、人材育成、他フロアへの支援等に充てる時間を確保しやすくなった。

また、日常的な支援内容の記録を介護記録ソフトへ移行したことで、紙媒体のチェック表が削減できた書類もあり、ステーション内の環境整備・美化にも寄与している。これらの取組の結果、残業時間の削減及びサービスの質向上が進み、職員と利用者双方のウェルビーイングの実現に資する環境が整いつつある。

さらに見守り支援センサーの導入に伴い、夜間巡視の頻度を見直し、75分から10分へと大幅な時間削減となっている。

職員の負担軽減に加えてご利用者の睡眠を妨げにくい環境づくりにも大きな成果を上げている。

□ 4.次のステップ

- ・他フロアの業務効率を促進させ、稼働率の向上とケア時間の創出を行い、サービスの質向上へ
- ・生産性向上推進体制加算Ⅰ取得、有給休暇8割取得等を目指していきたい

□ 5.まとめ

これらの成果は単にIoT/ICT機器を導入したからではなく、

「チーム全体で業務を見直し、改善を継続する文化」が根付いていることによるものと

考えられる。現場の創意工夫が積み重なり、業務時間の削減のみならず、ご利用者との関わりや職員同士の支え合いも豊かになっている点が印象的。他フロアの実績向上にも波及し、更なる改善の定着に期待。

